

# 福岡湾におけるテナガダコの生態に関する研究

## 研究部

### 背景、目的

テナガダコは、福岡湾における重要な漁獲対象種で、現在、食用として韓国へも輸出されています。

テナガダコは漁獲変動が激しく、これを安定させるためには資源管理の取組が必要ですが、研究事例があまりなく、生態に関する基礎知見が不足しています。

そこで本研究では、テナガダコの漁獲状況、成熟、成長について調査・解析を行いました。



テナガダコ

### 成果の概要

#### (1) 漁獲状況

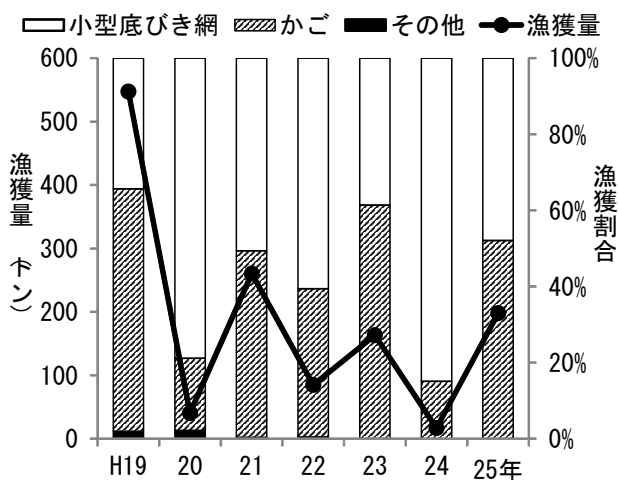
テナガダコの漁獲量は、隔年で増減を繰り返しながら、減少傾向にありました。月別漁獲量を見ると、小型底びき網では主に4～8月、かごでは1～8月にかけて漁獲され、盛漁期は小型底びき網が7月、かごが3月と6月に認められました。

#### (2) 成熟・成長

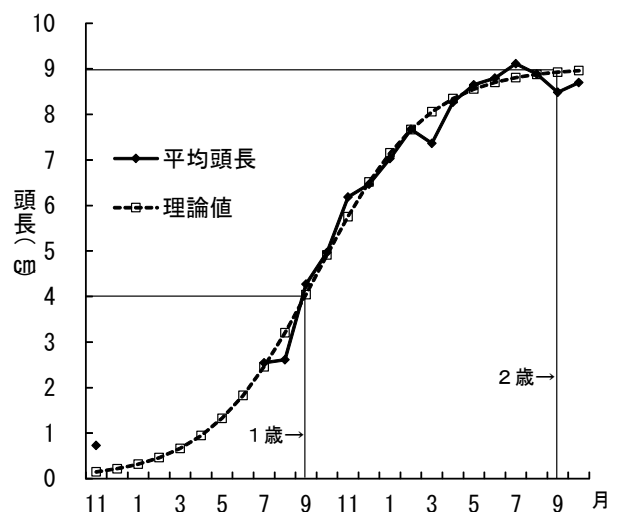
テナガダコの成熟状況からみて、産卵期は8～9月頃と推定されました。

また、頭長組成の月別推移と過去の知見（産卵から孵化までの期間：約2ヶ月、孵化直後の頭長：0.7cm）から成長曲線を求めたところ、9月に産卵された卵は11月に孵化し、翌年9月には頭長約4cm（70g）に、さらにその翌年の7月には約9cm（400g）に成長すると推定されました。産卵は、2年目の8～9月に行われ、その後10月頃に死亡し、寿命は約2年と考えられました。

これらの結果から、テナガダコの隔年の漁獲変動は、漁獲主体となる群が毎年交互に入れ替わっていることが一つの要因になっているものと推測されます。資源を持続的に利用するためには、8～9月頃に漁獲加入する1歳群の漁獲を控え、翌年の産卵へと繋げることが重要と考えられました。



漁獲量と漁業種別漁獲割合の推移



成長曲線